

平成23年9月1日

赤穂化成株式会社
品質保証部

放射性元素測定装置導入による自社検査開始のお知らせ

このたび、赤穂本社工場品質保証部は、高性能の放射性元素測定装置を導入いたしました。

東日本大震災による原発事故以来、「天海シリーズ」及び「赤穂の天塩」の放射性物質（ヨウ素、セシウム）を、外部の分析機関に検査を委託して参りましたが、このたびの分析装置の導入により、自社で、詳細かつ、より低濃度の放射元素の検査が可能となりました。

9月1日より、一層の安全、安心の期待に答えるため、以下の自主検査を実施し、「放射物質未検出」を確認し、商品をお客様にお届けして参ります。

お客様におかれましては、これまで以上に、ご安心して弊社商品をお求めください。

※検査対象となる放射性物質は、原発事故汚染指標となるヨウ素131及びセシウム134、137です。

「天海シリーズ」の放射性物質検査体制

- ・海洋深層水（原水）を1回/週の検査を実施し、未検出（検出限界 1Bq/kg）を確認します。
- ・「天海の水シリーズ」、「やさしい純水」「天海の塩」「天海のにがり」等、海洋深層水を原料とする商品は、製品ロット毎（製造毎）に検査を実施し、未検出（検出限界 1Bq/kg）を確認して出荷いたします。

「赤穂の天塩」の放射性物質検査体制

- ・原料の「天日塩」と「にがり」を、原料ロット毎（入荷毎）に検査を実施し、未検出（検出限界 1 Bq/kg）を確認いたします。
- ・商品「赤穂の天塩」は、1週間毎、検査を実施し、未検出（検出限界 1 Bq/kg）を確認いたします。

「その他商品」

こだわりの豆乳、天海の緑茶などにおきましても、適時検査を行い、未検出を確認いたします。

以上

平成23年9月1日

高性能の放射性物質測定装置の紹介

このたびセイコーアンドジー社製の「食品・環境放射能装置 SEG-EMS」を導入いたしました。この装置は、2001年3月に厚生労働省によって作成された『緊急時における食品の放射能測定マニュアル』に記載されている放射線量測定方法「ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法」を可能とするシステムです。

検査方法は、鉛を入れた厚みのある遮蔽容器に被験物を入れ、ガンマ線を測定することで、ガンマ線を発する放射性ヨウ素 131 及び放射性セシウム 134・137 が高精度に検出可能です。

ゲルマニウム半導体検出器

測定原理： ゲルマニウム半導体に放射線（ガンマ線）が通過すると、電離により電離電流が発生し、この電流を電気信号に変換することにより放射能を測定するものです。

セイコーアンドジー社製の「食品・環境放射能装置 SEG-EMS」



赤穂本社工場 品質保証部 検査室内